



# Powersim Studio 7 から SAP NetWeaver BI への接続

2006年12月



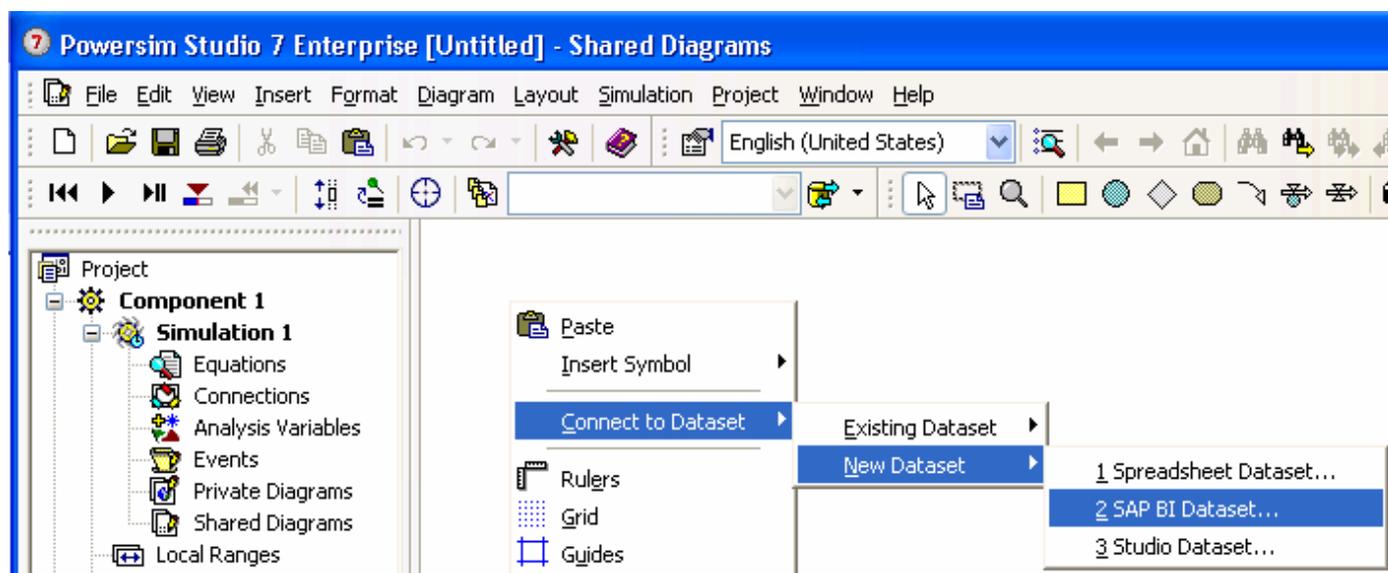
# SAP NetWeaver BIへの接続

SAPNetWeaver Business Intelligence (BI) では、ビジネスの完全な姿を描くことができます。それは、企業を横断したデータや外部からのデータを統合した後に、それを実用的でタイムリーな情報に変換することによります。その結果、信頼できる意思決定、目標を狙った行動、ゆるぎないビジネスの成果が促進されます。

Studio7はダイナミック・シミュレーションを実施できることで、以上の機能を補強することになります。では、Studio7 中のSAP BI Datasets を使うことによって、SAP NetWeaver BIへいかに簡単に接続できるかを見ていきましょう。

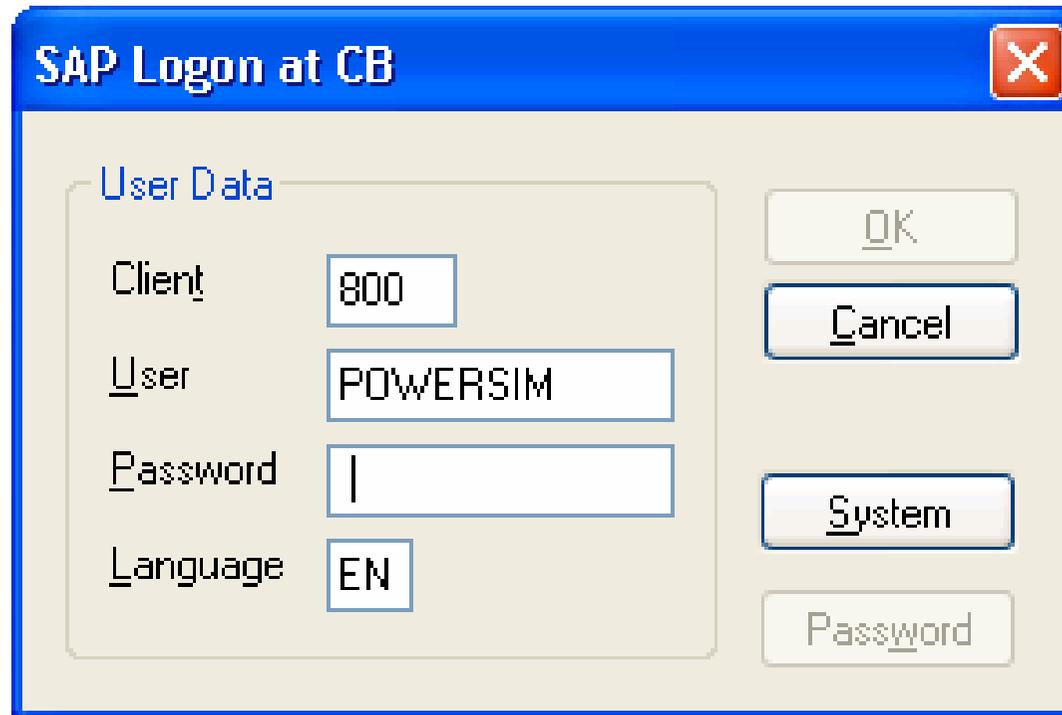
Powersim Studio7  
を立ち上げてくだ  
さい。

ダイアグラム・ウィ  
ンドウの中で、ダ  
イアグラムの  
ショート・カット・メ  
ニューから、右の  
図に示すように、  
新しいSAP BI  
Datasetへの接続  
を選択してくださ  
い。



# SAP NetWeaver BIへの接続

まず最初に、以下に示す標準ログオン・ボックスを使って、SAPシステムにログオンしなければなりません。



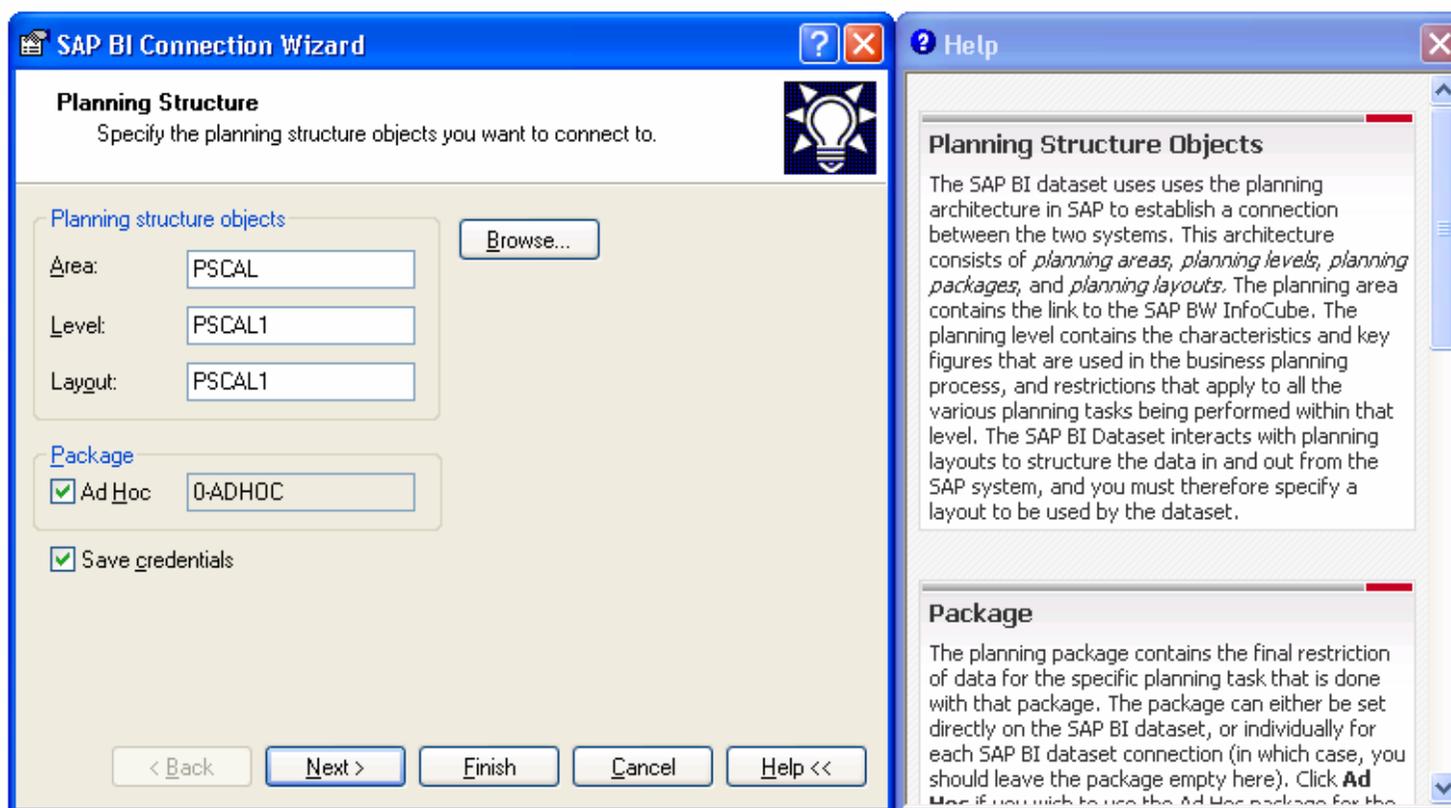
データのセキュリティを保持するために、接続したいと思っているデータキューブに対するアクセス権について、SAP側の正規の認定が当然必要です。

# SAP NetWeaver BIへの接続

次に、接続について設定するために、SAPの接続ウィザードを表示します。  
以下の図に示すように、ウィザードの最初のページでは、計画するための適切な対象を選択します。  
それは、計画パッケージをはじめ、計画領域、計画レベル、計画レイアウトです。

いつでも、そのページに合わせたヘルプ・ウィンドウを表示させることができることを覚えておいて下さい。

このヘルプにより、そのページの設定に関して情報を得ることができます。

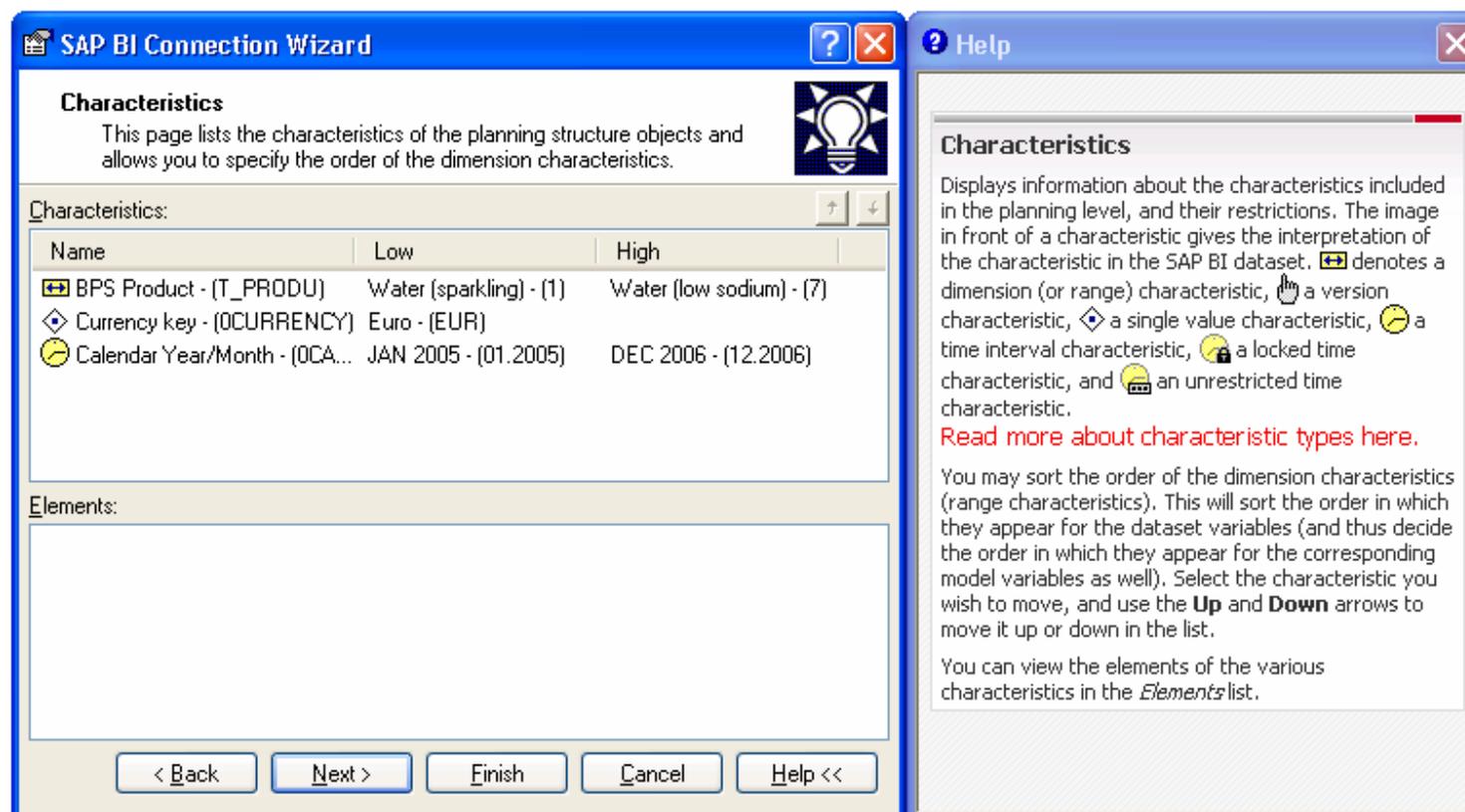


# SAP NetWeaver BIへの接続

次のウィザードのページでは、SAPで与えた計画構造オブジェクトから、利用できる特性 (Characteristics) と、主要表現式 (Key Figures) とを取り込みます。  
下記の図に示すように、ウィザードの特性 (Characteristics) のステップで、利用できる特性を調べることができます。

一般に、このページで設置されたデータセット変数の次元を決定することができます。

しかし、今回の簡単なケースでは、何もする必要がなく、Nextボタンを押すだけです。



Name	Low	High
 BPS Product - (T_PRODU)	Water (sparkling) - (1)	Water (low sodium) - (7)
 Currency key - (OCURRENCY)	Euro - (EUR)	
 Calendar Year/Month - (OCA...	JAN 2005 - (01.2005)	DEC 2006 - (12.2006)

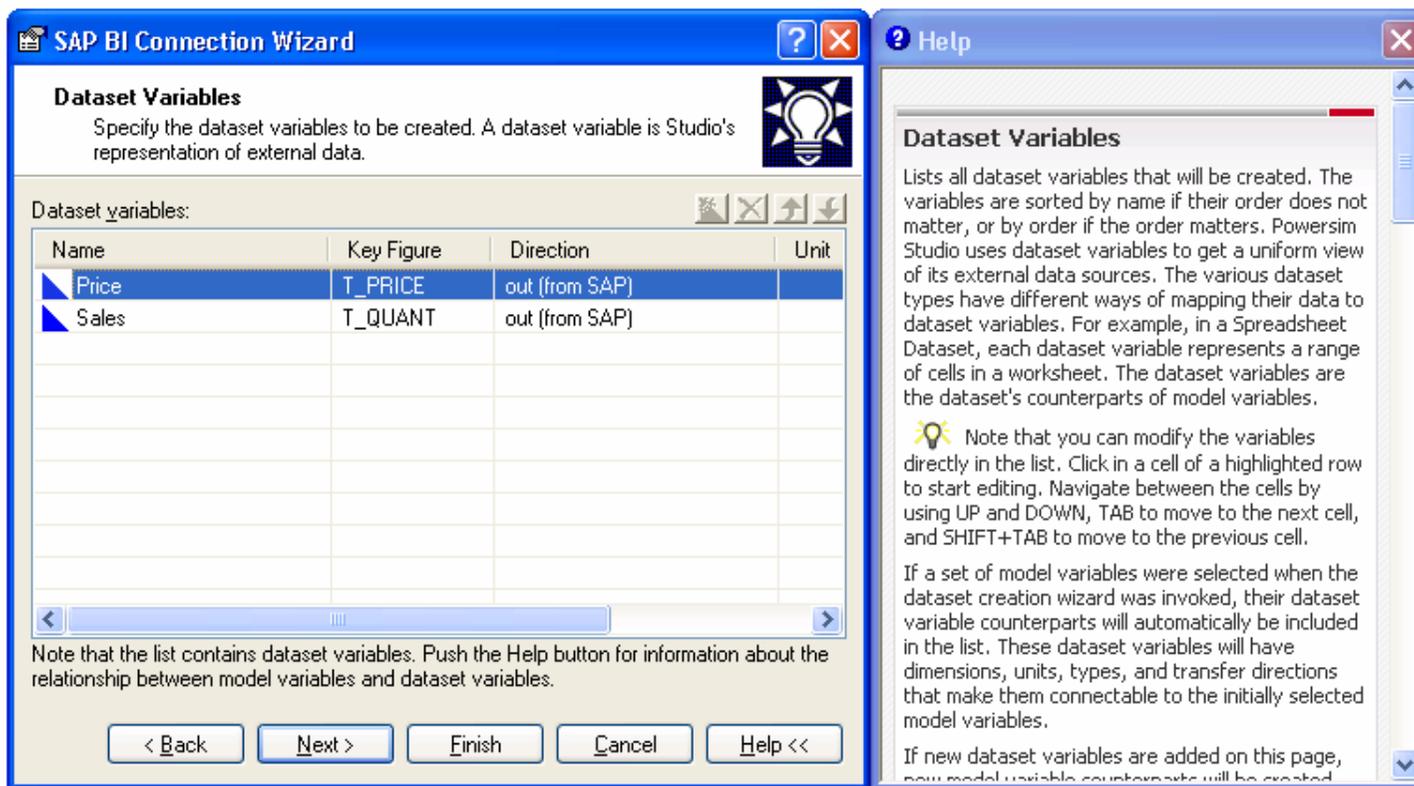
# SAP NetWeaver BIへの接続

次のステップは、データセットの変数のページで、ここでは、自動的に生成されたデータセットの変数一覧を見ることができます。

それぞれのデータセット変数は、主要表現形式の欄に描かれているSAPの中の主要表現形式に対応しています。

データセット変数の転送向きや要約形式のタイプなどを決定するだけでなく、データセット変数の名前も変更することができます。

転送のオプションに関するデフォルトを使って、Nextを2回選択して下さい。



The screenshot shows the 'SAP BI Connection Wizard' dialog box with the 'Dataset Variables' tab selected. The dialog box contains a table with the following data:

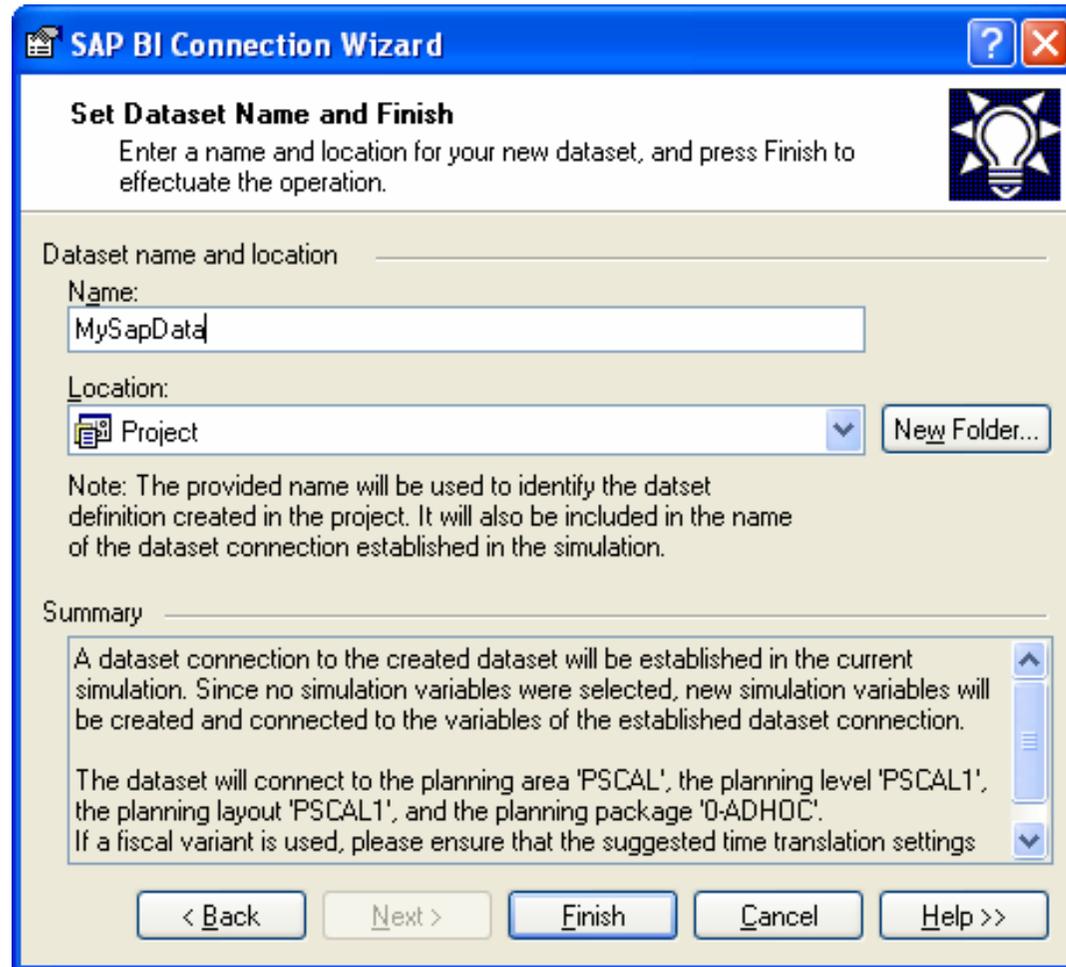
Name	Key Figure	Direction	Unit
Price	T_PRICE	out (from SAP)	
Sales	T_QUANT	out (from SAP)	

Below the table, there is a note: 'Note that the list contains dataset variables. Push the Help button for information about the relationship between model variables and dataset variables.' At the bottom of the dialog box, there are buttons for '< Back', 'Next >', 'Finish', 'Cancel', and 'Help <<'. To the right of the dialog box, a 'Help' window is open, displaying the 'Dataset Variables' help text, which includes instructions on how to modify variables directly in the list and how dataset variables are automatically included when model variables are selected.

# SAP NetWeaver BIへの接続

ウィザードの最終ステップでは、新しいSAP BIのデータセットに対して、名前と保管場所を与えることができます。今回のケースでは、自動的に付けられている名前だけを”MySapData”に変更しましょう。

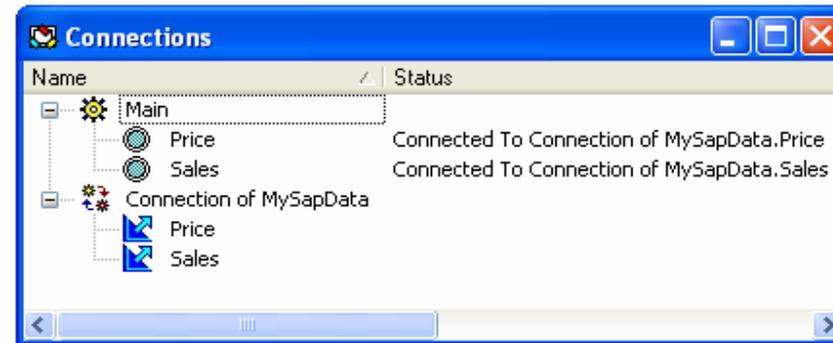
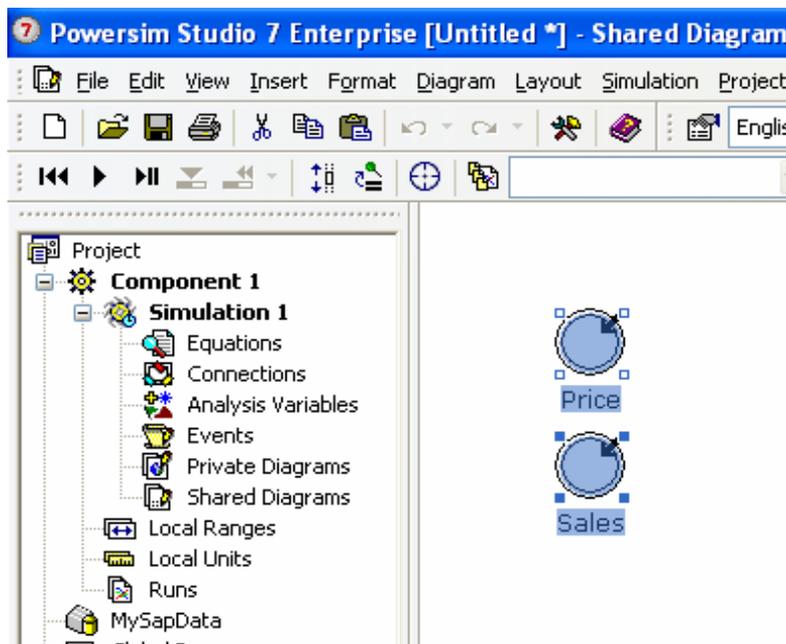
設定されたデータセットの概要を読んだ後、データセットを設定する操作を終了するためにFinishボタンを押してください。



# SAP NetWeaver BIへの接続



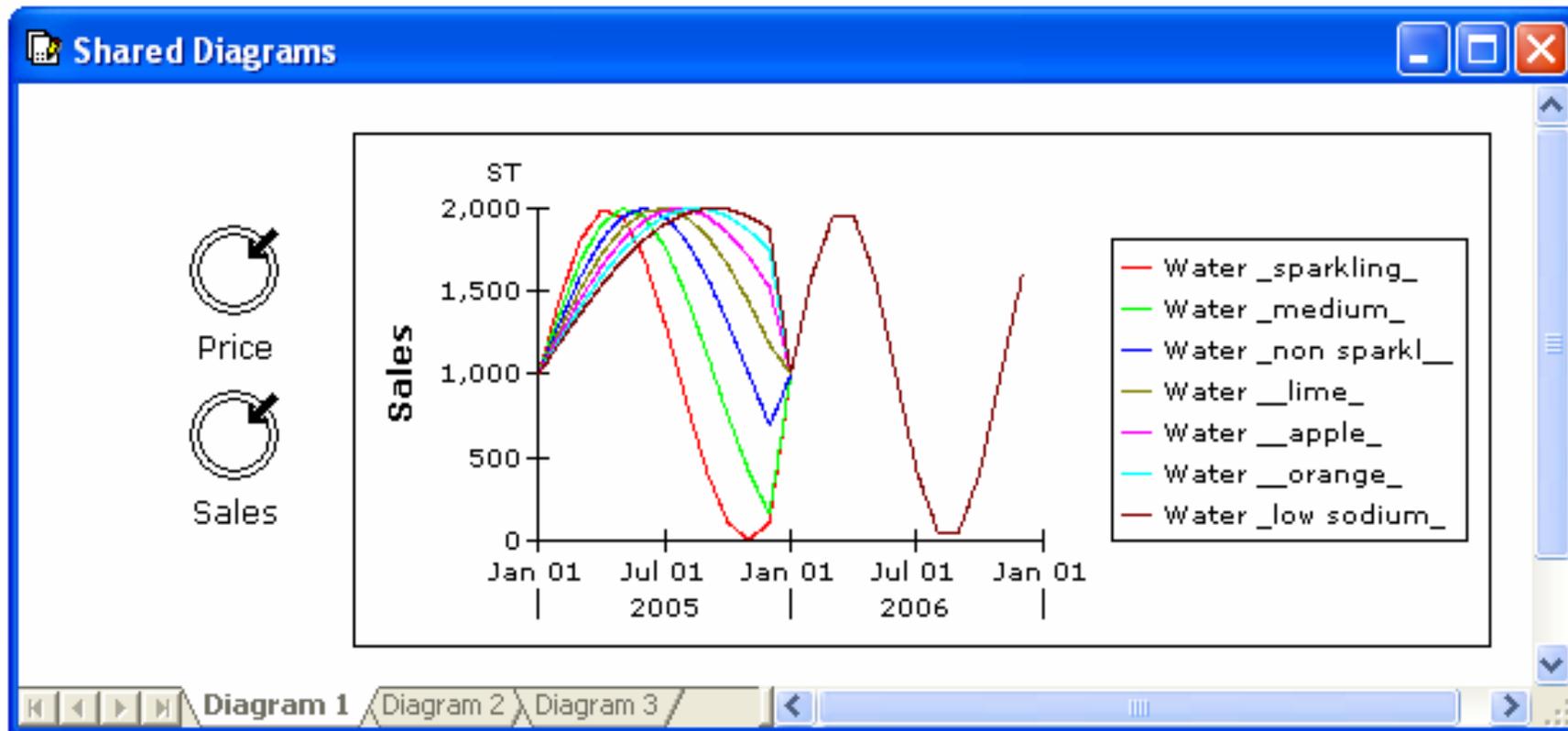
データセットへの接続のコマンドは、ダイアグラムの領域から立ち上がりますから、データセットの接続は、接続ウィンドウの中で自動的に生成されます。  
新しく生成されたデータセット変数に対応するモデルの変数は、ダイアグラムの中に現れます。  
以上について、以下の2枚の図で示します。



このケースでは、SAPから出力される向きのデータセットだけを持っていますので、この段階で、既に完全に接続したことになっています。  
今や、データがSAPからStudioのモデルへ転送されることを観察するために、シミュレーションを実行することができます。

# SAP NetWeaver BIへの接続

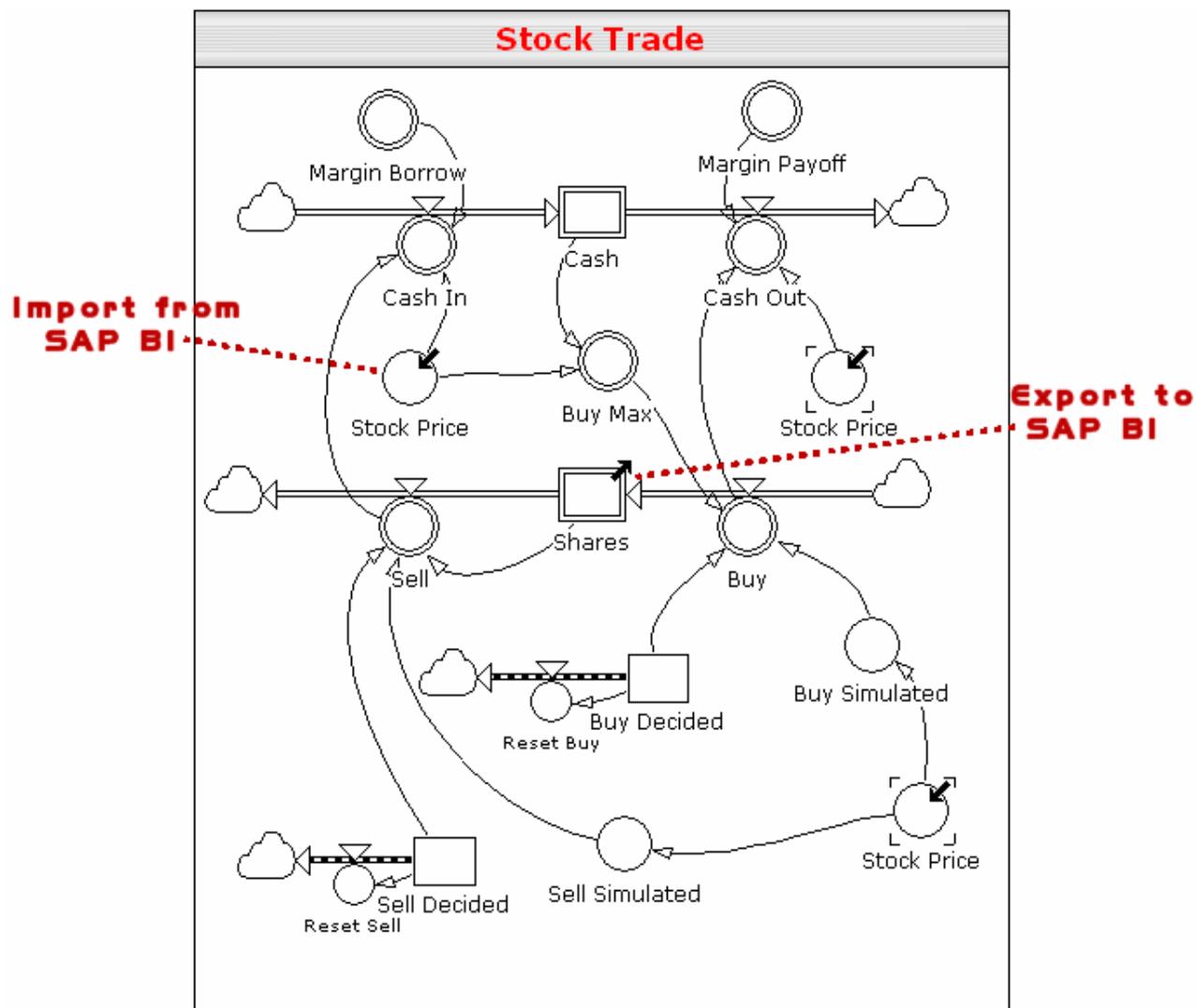
SAPからデータが転送されてくるのを確認するために、たとえば、以下の時系列グラフの図において、“販売(Sales)”と名づけられているモデルの変数に接続しているSAPデータを示します。



# SAP NetWeaver BIへの接続

接続機能と共に、SAP BIとの間で、入出力のやり取りのために接続されているモデルの変数を使いながら、モデルは構築されます。

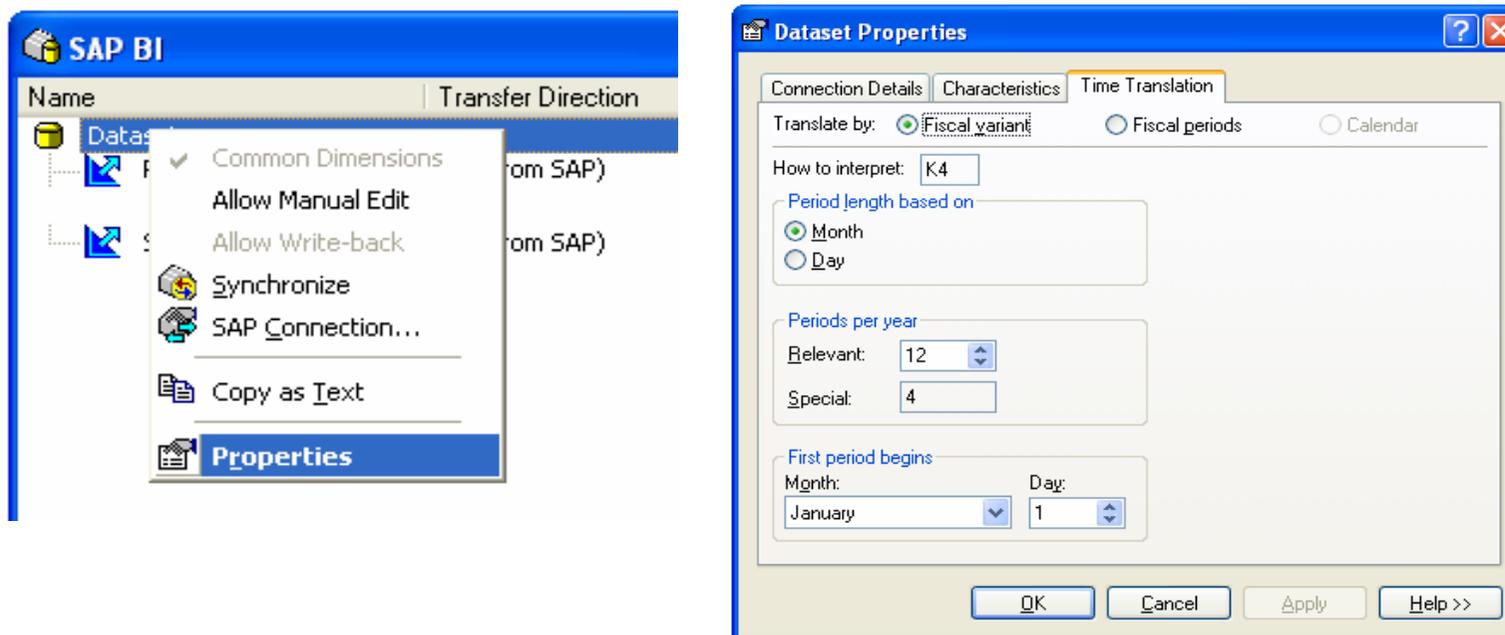
そのようなモデルの一例を右の図に示します。



# SAP NetWeaver BIへの接続

今まで見てきたように、SAP BI 接続ウィザードの一連の作業には、SAP BIへ完全なデータセットを生成するための全ての工程が含まれています。

後に、もしも設定を変えたくなくなったり、あるいは、SAPにおいて会計年度ベースのデータと接続するときの時刻変換の属性のように、少し高度な属性の幾つかを調整したい場合には、以下に示すような属性コマンドを選択することができます。

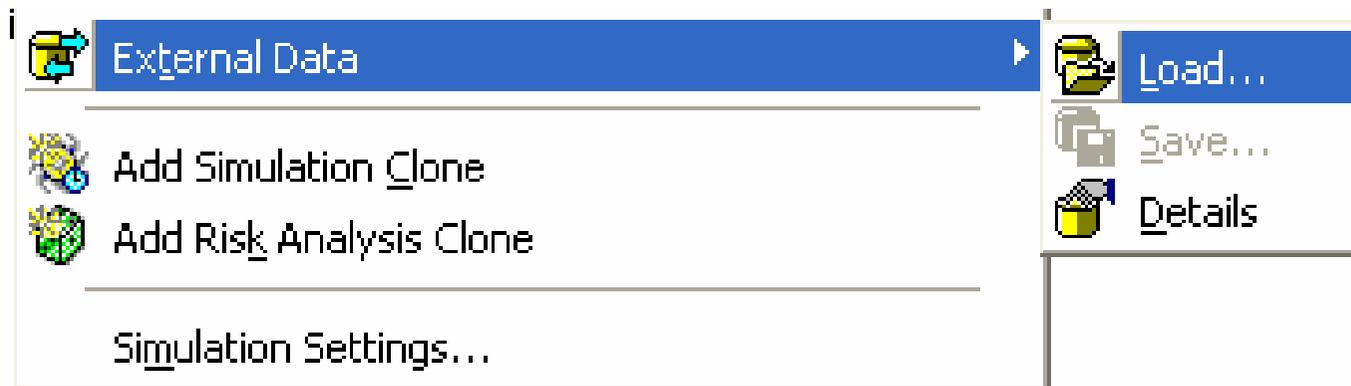


プロジェクト・ウィンドウで、データ・セットの表示名をダブル・クリックすることによって、まずデータ・セットを開きます。

次に、データ・セットのコンテキスト・メニューからプロパティ・コマンドを選択します。

# SAP NetWeaver BIへの接続

データが実際にSAP BIとの間で”Load External Data” と ”Save External Data”コマンドを介して行き来するときに、完全にコントロールできる状況になりました。  
もし、SAPへの接続の接続が切れたならば、Studioは接続されていたときの最後の状態を、いつでもキャッシュに格納していますから、シミュレーションや分析を引き続き実行できます。



もちろんのことですが、Powersim Studio7とSAP NetWeaver BI とを接続すると、この短いプレゼンテーションでご覧に入れることができたことをはるかに超えて、ユーザーができることは山ほどあります。